

評価委員会総合評価

研究課題名：温暖化への対応策に資するための日本域の気候変化予測に関する研究
評価委員

委員長：田中正之

委員：蒲生俊敬、中島映至、田中 佐、田中 博、渡邊朝生

評価年月日：平成 25 年 11 月 14 日

1. 総合評価

- ☐ 非常に優れた研究であった。
- ☒ 優れた研究であった。
- ☐ 研究を実施した意義はあった。
- ☐ 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、地球温暖化適応策の策定に資するため、全球大気海洋結合モデルの予測データを、地域気候モデルを用いてネスティングし、詳細な予測を行い、予測信頼性等の影響評価に必要とされる情報を提供するための次世代地域気候モデルの開発を目的としている。

本研究により、温暖化施策等の報告書への貢献や、研究用データセットが作成されたほか、我が国に特有の気候変化（温暖化、異常気象の頻発）の再現と要因解明に成果を上げている。また、研究成果の外部への発信も十分に行われ、他の研究機関や他省庁においても活用されたことは評価に値する。

また、現在気候の再現性は良く、モデルの予測性能は確実に上がっていることが認められる。この結果、日本地域の現在、近未来（約 30 年後）、21 世紀末（約 100 年後）の温暖化予測実験を実施し、詳細な予測情報が作成され、その成果は文科省・気象庁・環境省の三省合同の温暖化統合レポート第 2 巻等に利用された。

また、高解像度地域気候モデルが開発され、バイアス等の影響の適切な評価により、温暖化の影響解析結果が利用可能となった。更に、様々な角度からの検証と精度向上に向けた研究課題の整理が行われ、今後のモデルの開発・改良に向け着実に進展した。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定のもと概ね適切な研究体制で実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

地域毎の詳細な温暖化影響評価については、非常に強いニーズがあることから、今後も着実に研究を進めて欲しい。